

SDGs未来都市等進捗評価シート

2021年度選定

北海道上士幌町

2022年8月

SDGs未来都市計画名

上士幌町SDGs未来都市計画

自治体SDGsモデル事業

「スマートタウンで"弱点"転変！かみしほろ幸せ循環」プロジェクト

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

上土幌町SDGs未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

上土幌町では、持続可能なまちを実現するため、食料自給率の向上、環境保全や循環型社会の構築を目指し、家畜ふん尿を活用した再生可能エネルギー発電と地産地消の取組を実施してきた。またイノベーションに対する支援、子育て教育に対する投資に加え、住民が生涯にわたって生き生きと活躍する施策が実を結び、半世紀ぶりに人口増を実現した。今後は、これまで実施してきた取組にSDGsの視点を取り入れ、さらに進化させることで、「まちの価値」を高めていくとともに、町民が一体となって取り組んでいける環境を整えながら、町全体でSDGsのゴール達成に向けて、次の5つの基本的な考え方により取組を進める。

①人類生存の基盤となる食料とエネルギーが自給されるまち ②環境と調和したビジネス展開で強靱な地域・経済が実現するまち ③だれもが生涯活躍のまちづくりによりQOL向上が図られるまち ④関係人口の創出・拡大による人材還流と新たな価値が生まれ出されるまち ⑤スマートタウンの構築が地域内外の幸せを後押しするまち

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
 	 	 

(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	新規雇用人数（無料職業紹介所による雇用）【8.3,8.5】	2021年1月 12人	2021年 22人	2030年 100人	11%
2	観光拠点設備（道の駅・ナイトテラス）での一人当たりの観光消費額【9.1】	2019年1月 600円	2021年 1020円	2030年 950円	120%
3	人口の社会増加【3.8】	2021年1月 (2020年1年間) 43人	2021年累計 53人	2030年累計 143人	10%
4	目標人口【11.3】	2021年1月 4,964人	2021年 4,943人	2030年 4,460人	100%
5	再生可能エネルギー電力契約件数【7.1,7.2】	2021年1月 342件	2021年 408件	2030年 776件	15%
6	生乳生産量【15.1】	2021年1月 11.7万トン	2021年 13.7万トン	2030年 13.0万トン以上	154%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

【進捗状況】

- 町長を本部長、副町長及び全課部局長を本部員とする「上土幌町SDGs推進本部」を設置するとともに、有識者をはじめ、役場職員、高校生、子育て世代、まちづくりに関心のある方など、町内の若手メンバーで構成する「SDGs推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、普及啓発資料としての上土幌町版SDGsボードゲーム作成をはじめとする具体的な取組を実施。
- 総合戦略に掲げる施策とSDGsゴールとの関連性を整理。また、第6期上土幌町総合計画にSDGs推進の考え方を明示。
- 学校、企業等からの依頼に応じて、それぞれの理解力に応じたSDGs出前授業を実施。
- 本町への誘客促進のため、SDGsスポットを巡るツアーを造成。

【課題等】

- (株)karchiによる再生可能エネルギー-地産地消の取組が町内に徐々に浸透し、再生電力契約件数は前年度より19%増加したものの、大手電力会社の営業による契約の変更事案も数件みられている。まち全体における脱炭素実現に向け、町民への普及啓発をさらに進めるとともに、環境に配慮した行動への変容を促すことで、供給拡大を目指していく。（指標No.5）

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
1	①人類生存の基盤となる食料とエネルギーが自給されるまち	バイオガスプラント導入による持続的農業の推進	2021年1月 5 か所	2021年 6 か所			2023年 6 か所	100%
2	②環境と調和したビジネス展開で強靱な地域・経済が実現するまち	観光入込客数	2018年8月 440 千人	2021年 未発表			2023年 940 千人	-
3	③だれもが生涯活躍のまちづくりによりQOL向上が図られるまち	人材センター会員数	2021年1月 87 人	2021年 118 人			2023年 214 人	24%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

<ul style="list-style-type: none"> ・(株)生涯活躍のまちかみしほると、(株)karchの二つの株式会社との緊密な連携・協働により、「かみしほろSDGsプラットフォーム」プロジェクトを推進。（詳細は後掲） ・持続的なまちづくりの実現に向けては、自発的な取組を生みやすい環境づくりや人材の育成が必要ことから、まちの将来を支える若者で構成する「SDGs推進プロジェクトチーム」を2021年8月に設立。計7回の活動において、SDGsと本町の取組への理解を深め、町民がSDGsを身近に感じ、自分ごととして考え、行動できる環境づくりを進めた。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道営事業による居辺地区集中バイオガスプラント1基の整備を実施。家畜から排出されるふん尿を活用したバイオガスプラントは、町内6か所、計7基となった。（指標No.1） ・観光入込客数は2021年「北海道観光入込客数調査報告書」が未発表であるが、新型コロナウイルス感染者の増加によるまん延防止等重点措置の発令等の影響により、当初の想定よりは厳しい数字が見込まれる。（指標No.2） ・シルバー人材センターの機能を有する「かみしほろ人材センター」では、地域の困りごとや仕事と、それを解決できる人材のマッチングシステムの運用を2021年10月に開始。双方の生きがいや働きがいの創出と地域経済の活性化を図っている。（指標No.3） <p>【課題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かみしほろ人材センター」について、幅広い仕事に対応できるよう、更なる会員の獲得が必要である。また、マッチングシステム「まちジョブハレタ」の認知が不足しており、幅広い周知が必要である。（指標No.3）

(4) 有識者からの取組に対する評価

<ul style="list-style-type: none"> ・人口5,000人の自治体で驚くべき新しい試みを行っている点は高く評価できる。 ・ワーケーション、DX化、MaaSなど、実験段階ではあるが実に多くの事業を展開している点も評価できる。 ・「スマートタウン」や「幸せ」などを含め、上土幌町の特徴を意識して取組を進めることを期待する。

2. 自治体SDGsモデル事業

(1) モデル事業名

「スマートタウンで“弱点”転変！かみしほろ幸せ循環」プロジェクト

(2) モデル事業の概要

次世代高度技術を活用し、スマートタウンの構築を進め、住民生活の利便性を向上することで、だれもが生涯活躍のまちづくりを後押し。さらに、再生可能エネルギーの地産地消、E Vによる空港直行便の導入で関係人口を創出し、地域経済の活性化につなげる。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
【経済】 ①-1 ワークーションバックの開発 ①-2 都市部企業とのビジネスマッチング	【取組内容】 ①ワークーションバック開発事業 ②かみしほろ緑ハンスプロジェクト	シェアオフィス利用企業数	2021年1月 8社	2021年 14社			2023年 37社	21%
【社会】 ②-1 域内DXの推進 ②-2 住民向けMaaSの実証	【取組内容】 ①高齢者向けタブレット端末配付 ②AIチャットボットの整備 ③高齢者等福祉バスのデマンド化	高齢者のタブレット利用률	2021年1月 0%	2021年 16.2%			2023年 37%	44%
【環境】 ③-1 再生可能エネルギーの地産地消 ③-2 ドローン配送とE Vによる空港直行便の実証	【取組内容】 ①家畜ふん尿を資源として域内で発電した再生可能エネルギーの地産地消推進 ②ドローンによる配送実証事業 ③再生可能エネルギーを活用したE Vの空港直行便運用	再生可能エネルギー電力契約件数	2021年1月 342件	2021年 408件			2023年 559件	30%

(4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

【進捗状況】

- ・シェアオフィス、宿泊、車での移動をセットにした「かみしほろワークーションバック」を開発、2021年8月から運用開始。(取組①-1)
- ・町内だけでは解決できない困りごとがある町内の事業者や生産者と、それに協力できるスキルを持った都会の兼業副業したい方をつなぐビジネスマッチングプロジェクト「かみしほろ緑ハンスプロジェクト」では、町内の6事業者が登録、応募件数21件のうち3件のマッチングが成立した。(取組①-2)
- ・高齢者等福祉バスのデマンド化に係る予約システムの構築を完了。2022年の事業開始に向けて、スマホを持っていない高齢者独居及び高齢者夫婦の86世帯にタブレットを配付。(取組②-1)
- ・2021年10月には、ドローンを活用した観光商品開発のデモ飛行を実施したほか、全国初となる個宅への買い物代行ドローン配送の実証を行った。(取組③-2)

【課題等】

- ・住民の利便性向上や関係人口の創出に向けては、より一層ワークスペースや宿泊施設、移動手段を充実していく必要がある。2022年4月に運用を開始した企業滞在型交流施設「にっぽうの家」や既に実施している「MaaSプロジェクト」と連携しながら、町内での過ごしやすさを高めていく必要がある。

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

(1) 三側面をつなぐ統合的取組名

「かみしほろSDG推進プラットフォーム」プロジェクト

(2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

SDGsの達成に向け、地域が一体となって取組を進めるため、行政と事業者・団体等をつなぐプラットフォームを構築し、意識の醸成と情報の共有化を図りながら具体的な活動を促進していくとともに、SDGs人材の育成、ツアーの開発・実施を通じた域内外への取組の発信により、人や投資を呼び込むことで、統合的取組の実効性を高める。

(3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇄環境	経済⇄社会	社会⇄環境
<ul style="list-style-type: none"> ・(株)karchによる再生可能エネルギー地産地消の取組が徐々に浸透しはじめ、電力契約件数は前年度より19%増加。 ・域内で産出されたグリーン電力を活用したEV送迎サービスをワーケーションパックに組み込むことで、利便性が向上し、シェアオフィス利用者が増加するなど、関係人口の創出につながっている。 ・来町された都市部企業と町内事業者を結ぶマッチングプロジェクトにより、新たなビジネスも芽生えてきているところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が続いており、コミュニティづくりの拠点「hareta」への集客や人材センターの業務受注件数は伸びていないところ。 ・自動運転やドローン、AIなど新たな技術を活用し、利便性の向上と効率化、CO2の削減を図っている。 ・SDGs達成に向けた様々な取組を先駆的に実施していくことにより、メディアでも数多く取り上げられ、企業等から連携・協働による取組の提案が多数来ている。 ・複数の企業から企業版ふるさと納税での支援についても相談が来ており、域外からの投資を呼び込みながら、スマートタウンの早期構築につなげていきたいと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「かみしほろSDGsプラットフォーム」プロジェクトの実施により、SDGsへの町民理解が促進され、学校でのフードロス対策や地域食堂の開設など、自発的な取組が徐々に展開。 ・ゼロカーボン実現に向けた取組として、自動運転バスの導入やデマンド運行への転換、ドローン配送などを進めていくなど、人流と物流の効率化と利便性を向上し、シニアをはじめとした町民の移動を活発にすることで、生涯活躍のまちづくりを後押ししていく。

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
1	{経済→環境}再生可能エネルギー電力契約件数	2021年1月 342件	2021年 408件			2023年 599件	26%
2	{環境→経済}都市部企業とのビジネスマッチング数	2021年1月 0件	2021年 3件			2023年 7件	43%
3	{経済→社会}起業・コミュニティづくりの拠点(hareta)への集客数	2021年1月 2,317人	2021年 2,086人			2023年 4,000人	-14%
4	{社会→経済}人材センターの業務受注件数	2021年1月 288件	2021年 250件			2023年 1,088件	-5%
5	{社会→環境}SDGsに示される169のターゲットに関する取組数	2021年1月 2件	2021年 9件			2023年 14件	58%
6	{環境→社会}次世代高度技術の社会実装項目	2021年1月 10項目	2021年 16項目			2023年 26項目	38%

(5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

【再掲（詳細説明）】

・本町における取組を総合的かつ効果的に推進する「上土幌町SDGs推進本部」を中心に、町民の若手メンバーで構成する「SDGs推進プロジェクトチーム」と(株)生涯活躍のまちかみしほろ、(株)karchとの連携・協働により具体的な事業を展開していくとともに、実施した取組の検証・改善を「上土幌町総合戦略検証会議」が担うことで、「かみしほろSDGsプラットフォーム」を形成。

・プラットフォームのもと、ESG投資と域内循環を推進するとともに、SDGs人材の育成、SDGsツアーの開発を通じ、全国に地域SDGsの取組をPRしながら、人と投資を呼び込み、スマートタウンの構築・推進を図ることで、持続可能なまち「かみしほろ」を実現していく。

(6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

【進捗状況】

・町内だけでは解決できない困りごとがある町内の事業者や生産者と、それに協力できるスキルを持った都会の兼業副業したい方をつなぐビジネスマッチングプロジェクト「かみしほろ緑ハンスプロジェクト」では、町内の6事業者が登録、応募件数21件のうち3件のマッチングが成立した。（指標No.2）（再掲）

【課題等】

・新型コロナウイルス感染者が増加し、まん延防止等重点措置が発令された影響により、イベント等の実施が困難であったことから、haretaへの集客数は前年度よりも減少した。（指標No.3）

・人材センターに登録している高齢者が感染リスクが高まることを懸念し、業務を受注しないケースが多くなり、人材センター業務受注件数も目標値に届かなかった。（指標No.4）

【対応策】

・感染者が減少傾向に入り、住民に徐々に安心感が生まれ、行動が活発化してきた際には、積極的な普及啓発活動を展開していく予定。

(7) 有識者からの取組に対する評価

・少ない職員で実際の事業に取り組んでいる点評価できる。

・シンプルなKPI設定であるが、十分に目標を達成しており評価できる。

・市民の行動変容には「楽しい」という要素を含めるとなお良いと料する。